

表題 「情報融合学環」～データサイエンスを駆使して新たな価値の創造と発見に挑戦する～



令和6年4月4日情報融合学環入部式の様子



ガイダンス・授業風景の様子

令和6年4月、熊本大学で75年ぶりに創設した学部等連係課程。

文系・理系の枠にとらわれず、社会の中で柔軟な発想力とデータサイエンスをベースとした様々な知識・技術を駆使してイノベーションを創出し、国際社会で活躍できる人材の育成を目指す。

4年間のカリキュラムを通して、ビッグデータ分析、情報処理、統計学、機械学習など、基礎となるデータサイエンスを学びつつ、2年次からは自身の興味に応じて所属するコースを2つから選択する。コースは、経済学や行政学、インストラクショナルデザインなど文理横断的な知識を習得し、幅広い社会の課題解決に取り組むDS総合コースと、半導体に関する知識を専門的かつ実践的に学び、半導体を含む製造DX課題に向き合い、課題解決に臨むDS半導体コースが用意されている。

本学で唯一入試に「女子枠」を導入し、また高校でのクラス選択が文系・理系のどちらでも受験できるよう設計されており、様々な社会の課題の解決に向けて多様な背景を持つ学生が集まり、切磋琢磨できる環境構築に努めている。教育の特色としては、1学年入学定員60名による少人数教育、大学の垣根を越えた連携開設科目の開講、企業との協働によるPBL(課題解決型)演習、アントレプレナーシップ教育、米国政府と連携した専門教育における英語教育カリキュラムの導入などが挙げられる。一方で、高校までの数学や物理・化学の知識に不安がある学生のため、特に半導体などの専門知識を学ぶために必要な知識を教える科目の開講、理解度に応じて授業内容を補助するeラーニングの提供、複数人の教員によるオフィスアワーの充実など、高校から大学の学びへの接続を丁寧にフォローする体制も整えている。

創設初年度である令和6年度は、男性46名、女性22名、計68名の学生が入学した。